

1 私と中村メイコさんの関わり

最初の関わりは、平成22年(2010)のことです。私が八名小学校長として、地域の人々から体験談を募集してまとめた「わたしの戦争時代」への原稿依頼を送ったことに始まります。メイコさんは、戦時中に富岡小学校講堂でショーを開催されたこと、下宇利の浅見家に疎開していた祖母を何度も訪ねられたことを聞いていたからです。

送付したのは9月27日、原稿が届いたのは10月12日でした。多忙な毎日をごさされているはずで、原稿を書いていただけなのか半信半疑でした。届いた原稿は本当に素晴らしいものでした。「わたしのホントのふるさととは……」というタイトルで、おばあさんが生まれた富岡を心のふるさととされ、深い愛着が端々に感じられる文章でした。メイコさんのおかげで、発刊した「わたしの戦争時代」は、より価値あるものとなりました。

平成23年11月27日、八名小学校創立50周年記念学習発表会が行われました。当時の6年生が「わたしの戦争時代」を熱演し、絶賛されました。地域の方の体験談を元に脚本にしたものです。その劇を記録に残すためDVDにまとめました。メイコさんにも見てもらいたいと思い、平成24年(2012)4月23日に洞雲寺へみえると聞き、DVDを住職の鈴木一基さんに預けました。すると、メイコさん直筆のサイン入りの本(人生の終いじたく)が届けられました。翌日にはマネージャーの蓬郷さんからお礼の電話ありました。私はお礼の手紙を送りましたら、逆に27日にメイコさんから手紙が届き、DVD拝見とありました。さらに、28日には、メイコさん本人からお礼の電話が私の携帯に入りました。

私はメイコさんの心遣いに恐縮し、本のお礼に日野屋(その後廃業)の大吟醸「天」を送りました。この時も、すぐにお酒のお礼のファックス届きました。

その後、富岡ふるさと会館のホームページを作成し、「わたしのホントのふるさととは……」の原稿掲載とすむさんの写真提供の依頼をしました。返信の手紙にはHP掲載の承諾、写真の提供は自宅からマンションへ引っ越し、荷物整理で写真を探すのは時間的に無理との手紙をいただきました。

私は、八名郷土史会主催でメイコさんの講演会を富岡ふるさと会館で開催したいと考えていました。令和元年(2019)12月15日に、講演依頼の手紙を送りました。開催時期は、メイコさんが洞雲寺への墓参りに合わせるとしました。打ち合せに東京まで出かけるつもりでいました。しかし、メイコさんは骨折してリハビリ中で当分は無理、新幹線での移動はできなくなると、残念な連絡がありました。

以上のように5通の厚かましい手紙を差し上げましたが、いつもすぐにご返事をいただきました。ご多忙のはずなのに、丁寧で迅速な対応をしてくださり、メイコ様の気配り、優しさをいつも感じていました。メイコ様の原稿のおかげで体験記録集「わたしの戦争時代」とHPの価値、重要性が増したことが、感謝に堪えません。

メイコ様にはもう一度、富岡でのご講演を依頼したかったのですが、実現できなかったことは実に残念です。メイコ様のご冥福を心からお祈りいたします。

2 伊田良種^{よしね}さんと中村メイコさんの関わり

メイコさんのお人柄は、ざっくばらんで庶民的な本当にいい人でした。

私は郵便局にいたので、メイコさんのおばあさん橋本すむさんの所へしょっちゅう郵便物を届けに行きました。メイコさんの一番上の叔母さんは津田塾大学で英語を学ばれ、大正時代にアメリカへ行かれて二世の方といっしょになられました。

終戦後はいろいろな物資がなくて生活に困る状況でしたが、アメリカからいろいろ送られてきて、私はそれをすむさんのところへ何度も届けに行きました。砂糖とか着る物を娘さんが送られたのです。すむさんが、「キャンデーをあげる。」と言われたことがあります。自分はアイスキャンデーしか知らなかったのも、アメリカから送ってくるのになぜ溶けなかったのかと不思議に思ったら、すむさんが紙で包まれた飴をくれたので、初めてキャンデーを知りました。荷物はいつも英語とローマ字で書かれていました。戦時中は英語が禁止だったこともあり、私はローマ字を知りませんでした。自分でローマ字を覚えたのは、橋本家との関わりのおかげです。

【すむさんの身の上話】

すむさんの父親は、菊池安兵衛という半原藩の殿様に気に入られた側用人で重臣でした。殿様は、「過ぎたるものあり、表御門に菊池安兵衛」と話されたといわれています。すむさんの旦那さんは学校の校長先生をやってみえました。女好きの方で、あっちこっちに女を作って、最後は女の人家で40代で亡くなりました。すむさんは、人に話せる話ではないが、旦那さんを引き取る時、「こんな辛いことはなかった。」と涙ながらに話され、自分ももらい泣きをしました。すむさんは、嫁としての立場ではとても苦勞をされた方なのです。

ご両親はそのことを承知されていて、息子のために苦勞されたので、これからは自分の好きなようにしてよいと、まとまったお金を渡したそうです。すむさんは6人の娘たちを連れて東京へ行きたいと申し出て、許されました。東京では下宿屋を始めて、自分では裁縫を教えて生活を営まれました。

【洞雲寺のお墓のこと】

平成7年(1995)、メイコさんはチエコさんの49日の法要で、洞雲寺にお墓を建てられました。法要の折にはメイコさんと交流があった私の家内と5、6名の女性が参列し、その時のお礼として名古屋の名鉄ホールへ招待していただきました。中村玉緒さんと共演されました。私も同行し、花束を贈ろうとしました。受付でいったん断られましたが、休憩時間に楽屋で渡すことができました。休憩時間に15分ぐらい話をさせていただき、その時に尋ねてみました。

「お墓に赤字で中村メイコと刻んでみえますが、亡くなられた時には富岡へ埋葬されるのですか。」と聞きました。メイコさんは、「私は一人っ子なので、お父さんとお母さんのところへ葬らせてもらいます。」と言われたので、「では分骨されるのですか?」と尋ねると、「私は全骨富岡へ埋葬してもらおうつもりです。」と答えられました。

そのことは神津さんに了解をとってみえ、神津さんもこちらへ埋葬してもらっても、という口ぶりだったとメイコさんはおっしゃられました。

メイコさんにとって富岡は、本当のふるさとだったということを強く感じた次第です。もう一度お会いできたらありがたかったのですが、それが残念でした。

メイコさんに関わるこぼれ話

令和6年2月7日

① 元八名郵便局長の娘さんの話

R6.1.22

昭和18年、中村家は奈良へ疎開することになりましたが、祖母の橋本すむさんは生まれ故郷の富岡に疎開されました。終戦後もしばらくは下宇利の浅見家の離れに住んでみえました。メイコさんが母のチエコさんに連れられて奈良から富岡にみえる時には、必ず八名郵便局に隣接する私の自宅へ立ち寄られました。父が郵便局長をしていて、郵便局前がバス停になっていたからです。

私の母は菊代といいます。チエコさんととても懇意にしていました。子どもの頃いっしょに遊んだからだと思います。手紙のやりとりをしていましたので、富岡へみえることも事前に分かっていたようです。私がまだ小さかった頃、母から何度か頼まれて下宇利にみえたすむさんの所へ、ちらし寿司や赤飯などを持って行った覚えがあります。確か3・4年生の頃だったと思います。でも、私はメイコさんに出会ったことはありません。チエコさんのお姉さんの高木綾さん（メイコさんの叔母）もみえたことは覚えています。

私の母がチエコさんとの手紙のやりとりで知ったのか、茅ヶ崎にいる深作ゆり子さん（メイコさんの叔母）の家の隣に加山雄三さんがみえたと聞きました。

メイコさんが神津善行さんと結婚された時、お二人で洞雲寺の士族の墓にある橋本家の墓（すむさんが眠る）にお参りにみえたと思います。きっとメイコさんが大好きなおばあさまに結婚のご報告をされたのだと思います。私の母が案内したと聞いています。

元郵便局長の娘 杉浦麗子さん（80歳 昭14年生） 富岡在住

② 元郵便局長の息子さんの話

R6.1.23

メイコさんのことで一番覚えているのは、西郷小の講堂で演劇をやってくれたことです。私が小学校2年生の頃だったと思います。西郷小学校まで6キロぐらいありますので、そこまで歩くのが大変でした。4・5人いっしょに行きました。大人の方が連れていってくれたはずなので、当時の担任の安形幸代先生が連れて行ってくれたように思います。先生は音楽が得意で、「緑の丘の赤い屋根～とんがり帽子」の歌などを教えてくれたので、メイコさんが子役で出演されるのを知って、誘ってくれたのかもかもしれません。たしか、「ニンジン」という演目だったように思います。

当時はテレビがなかったし、映画をあまり見ることもなかったので、メイコさんを知ったのはラジオで聞いたかブロマイドだったと思います。

お袋がチエコさんと親交があり、すむさんが疎開してみえたころホウズキを送ったことがあります。メイコさん達がホオズキを鳴らして遊んだのだと思います。

元郵便局長の三男 つねひろ 鈴木常弘さん（82歳 昭16年生） 富岡在住

③ 祖母すむさんの嫁ぎ先 橋本家の話

R6. 2. 3

亡くなった父 ^{やすし}康が、すむさんの洞雲寺での葬儀に参列したことを聞いています。メイコさんには出会わなかったそうです。すむさんには、夫からはあまりよくされなかったもので、かわいそうだったとも聞いたことがあります。

洞雲寺に橋本家の墓があることは知りませんでした。橋本家は、今は中宇利の慈廣寺の檀家で墓は家の近くにあります。詳しいことは聞いていないので分かりません。

メイコさんについては、豊橋市船町にあった日本フードの会社で講演があつてお話を聞いたことがあります。

中宇利橋本家 橋本安子さん (88歳 昭10年生)

④ 疎開先の隣家の方の話

R6. 1. 23

私の家は、橋本すむさんが疎開でみえた浅見登さん宅の隣なので、何回か家に行ったことがあります。すむさんと娘の高木綾さんがみえました。綾さんは背が高くてきれいな方でした。近所の子と何人かで遊びに行くと、縁側で必ずお菓子をくれました。それがうれしくて何度も行ったように覚えています。メイコさんがみえると聞いて行ったこともあります。顔を見ただけで話した記憶はありません。当時はすでにスターだと聞いていましたが、有名人の女の子と話すきっかけもなかったと思います。

富岡小学校の講堂でショーをやってくれた時には見に行きました。でもどんな曲を歌って、どんな演技をしてくれたのかはよく覚えていません。小学校からの帰り道で、メイコさんやすむさん、綾さんといっしょに帰って来たことは記憶にあります。

メイコさんは富岡と関わりのある方で、とても身近に感じていましたのでお亡くなりになったこと、本当に残念に思っています。ご冥福をお祈りいたします。

森本^{しょうお}旦生さん (88歳 昭10年生) 富岡(下宇利)在住

⑤ ラジオで作文を朗読された方の話

R6. 1. 16

メイコさんは、CBCラジオで子ども作文コンクールの優秀作品を朗読していました。当時の小学校は作文教育がさかんでレベルが高く、入賞は難しいと聞いていましたが、運よく私の作文を読んでもらえたのでとてもうれしかったです。私は八名小学校4年生で、学校から作文を応募し、選ばれた作文は2点でした。もう一人は文部大臣賞を受賞しました。私の作文は、お父さんの自動車修理工場の手伝いをしたという内容でした。メイコさんに読んでいただきましたが、小学生に手伝いをさせたことをみんなに知られたのが気になったのか、親父はうれしいやら恥ずかしいやら複雑な顔をしていました。

【メイコさんは、チビッコ作文教室のパーソナリティーとして、毎週日曜日にCBCラジオで放送、朗読されました。(1974年～2009年)】

富岡自動車社長 安形和彦 (60歳 昭和38年生) 富岡在住

この他にも、新城駅近くの新富劇場での演劇を見に行かれた方、新城市の市民文化講座で講演を聞かれた方等々、メイコさんと関わられた方は数知れません。新城市や富岡でのご縁を大切にされたおかげだと思います。多くの足跡を残されたメイコ様に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

令和6年2月吉日

八名郷土史会（文責：安形茂樹）

メイコさんのご家系の略年表

明 7 (1874)	祖母すむ誕生（富岡 菊池家）
明 23 (1890)	すむさん 中宇利曾根の橋本家に嫁ぐ（16歳）
明 43 (1910)	6女チエコさん誕生（橋本家から富岡の実家に戻る） 3年後 義父母死去 チエコさん看取る 長女、二女、三女、長男は東京在住
大 6 (1917) 頃	四女、五女、六女を連れて上京
大 9 (1920)	長男一夫さん死去（心臓麻痺） 夫死去（名古屋で別居）
昭 6 (1931)	チエコさん、中村正常さんと結婚
昭 9.5.13 (1934)	メイコさん誕生
昭 12 (1937)	2歳8ヶ月で映画出演（江戸っ子健ちゃん）
昭 18 (1943)	一家で奈良へ疎開 すむさんは富岡へ疎開 劇団結成（十朱幸代の父、メイコ座長） 芝居「にんじん」、歌と踊り 慰問回り
昭 19 (1944) 頃	富岡国民学校でメイコショー開催
昭 21 (1946)	女学校入学を断られる 劇団メイ・フラワー結成（13歳）各地へ公演活動
昭 24 (1949)	3月劇団解散 茅ヶ崎へ 上原謙（加山雄三）宅の隣
昭 25 (1950)	東京へ引っ越し すむさん戻る （富岡に7年あまり在住）
昭 30 (1955)	田舎のバスが大ヒット
昭 32 (1957)	すむさん死去（83歳）
昭 32 (1957)	メイコさん 神津善行さんと結婚
昭 56 (1981)	正常さん死去
平 7 (1995)	チエコさん死去 メイコさん：洞雲寺に建墓
	（メイコさんのご活躍の詳細は省略）
令 5.12.31	メイコさんご逝去
令 6.5.9	メイコさん納骨 神津家のみなさんが洞雲寺へみえる